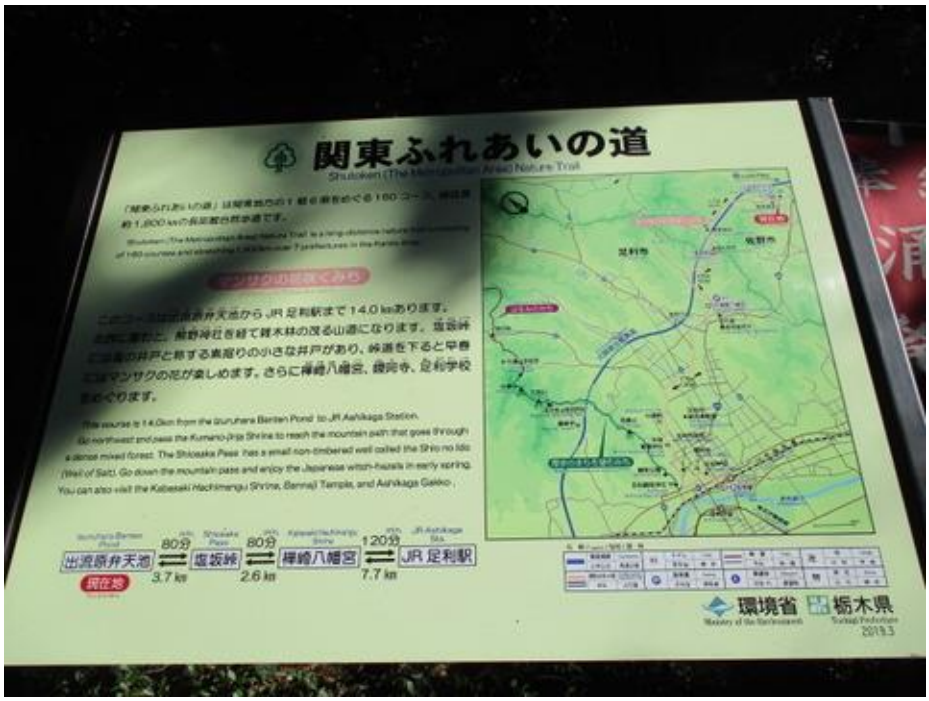
関東ふれあいの道（栃木）⑧まんさくの花咲くみち

2024 年 3 月　5 日池内淑皓

2024 年 2 月 13 日（火）前日足利のホテルに泊まり、朝早く歩き始める。
栃木の朝は寒いけれど、今日も快晴で、気持ち良いウオーキングが期待出来そうだ。
足利の町を通り抜け、里山を通り抜けて、樺崎八幡宮を通り、ひと山越えて佐野市に入る 14km、5 時間のコース。 今日もワクワクしそうな出会いがあるかな。



⑧まんさくの花咲くみち　コース案内板

コース図（足利駅から樺崎八幡宮、出流弁天まで 14km）

距離とおおよその時間

昨日は、駅前のホテルにゆっくり泊まったから、7:15　JR 栃木駅を早めの出発とした

コース通り、足利学校の前を通り

鑁阿寺（ばんなじ）の表参道を抜けて、コースに向かう

朝が早いから、参拝者はだれも居ない

大御堂に手を合わせて、西門に向かう

「鑁阿寺西門」足利義兼の創建と伝える。 永享 4 年(1432)再修理。鎌倉期の剛健な風格があると云う

足利市役所前を通り、関東ふれあいの道に向かう

「逆川」と言う用水のような小さな川に出る。道は川沿いに北に向かっている

逆川（柳原用水）は江戸時代、代官小林重郎左衛門が灌漑用に掘割して、北へ逆流させてこの付近六村に水を灌漑した

逆川を離れて、足利市内の静かな住宅街を通り抜ける

今度は大きな二級河川の「袋川」を渡る。源流は昨日歩いた行道山である

今度渡る川は名草川。この先河川工事中で通行止めであった

迂回路の橋を渡る、丁度出会ったウオーキングの叔父さんに、道を教えてもらう

関東ふれあいの道ルートに戻る

ご時世なのだろうか、門扉の付く屋敷が荒れ放題となっていた

関東ふれあいの道石柱と並んで、樺崎八幡宮への常夜灯付きの道しるべが出て来た

農作業の一休みに、本を読んでいるのだと云う。

出発してから 2 時間半、樺崎八幡宮に着く。

文治 5 年(1189)足利義兼は奥州合戦祈願のため、理真上人を開山として、この地に樺崎寺を立てた。

正治元年(1199)ここで入寂した義兼を、その子義氏が八幡宮と共に祀った。 足利一族の廟所として崇敬を集める

今度は常夜灯に案内されて、塩坂峠に向かう

集落の道を里山に向かって歩く、冬の里は何とものどかで心が落ち着く

里山では楢、椚の雑木を切り、炭や椎茸の榾木（ほだぎ）を作っている

今日のコース、タイトル通り 「まんさく」 が咲いていた

雑木の落ち葉が吹き溜る道も、枯れ葉がなかなか素敵なトレイルを、演出している

山にさしかかると、今度は地元の人が作ってくれた距離ポストが、道案内してくれる

峠は近いぞ

「塩坂峠(249m)」何も無いけどおだやかな峠。ベンチと案内板が置いてある

もちろん道標も置いてある。この峠は、足利の人と佐野の人達が行き来する、重要な通り道であった

「塩の井戸」弘法大師（平安時代初期）がこの峠を通り抜けるとき、ここで水を所望した。
出された水が塩辛かったので、塩の井戸と名付け、塩坂の名前が生まれた（説明板）

佐野市に入ると一転して凹地を歩く

結構長い距離があった。雨降ったら川になって、歩けなくなるだろう

峠を越えると、佐野市寺久保町というおだやかな集落に出た。

ここには梅も、まんさくも元気に咲いている

農作業のおばさんも親切に道を教えてくれる

「出流原弁天池」　弁天池に到着。池は国指定天然記念物、国の名水 100 選の名勝となっている

5 億年から 2 億年前古生層の石灰岩層から湧き出た水で清冽

昔はここから温泉が湧き出て、「赤見温泉」と名付けられていたが、今はその名が無い、路線バスも通らない

池の畔には、天慶の乱(939)で有名な、藤原秀郷が創建したと伝える弁財天がある

明治時代の出流原弁財天一帯の概念図

出流弁天から歩いて 30 分、石塚町に路線バスが走っているので、捕まえる。

12:53/14:53/16:35 発の佐野コミュニティーバスで JR 佐野駅に行く

朝、早めに出発したから 15:15 分に着いた、電車は 15:57 小山行がある

[参考タイム]足利駅(7:15)→足利市役所(7:45)→樺崎八幡宮(9:50-10:05)塩坂峠(11:00-11:10)→出流原湧水(12:25-13:15 昼)→赤見中学入口バス停(13:45-14:53)→JR 佐野駅(15:20-15:57)→小山駅(16:25-16:33)

この項完

関東ふれあいの道(栃木)⑨松風のみちに続く